

研究課題名	AYA 世代女性がん患者で、がん治療前に妊孕性温存療法に関して情報提供を受けた患者における卵巣機能評価に関する前向きコホート研究(Prospective Cohort study of Female Oncofertility)
試料・情報の利用目的・利用方法（他機関へ提供する場合その方法）	<p>AYA (Adolescent and Young Adult) 世代のがん患者さんの治療成績の改善により、がんサバイバーが増加しています。その一方で、化学療法や放射線治療などがん治療の内容によっては妊孕性に影響を与えるものがあり、がんサバイバーが不妊となることが明らかになってきています。日本がん・生殖医療学会は、2018 年にがん・生殖医療患者登録制度である日本がん・生殖医療登録システム (Japan Oncofertility Registry: 旧 JOFR) を設立し、2021 年には公的助成制度の設立に合わせて新 JOFR に発展しました。同システムにてがん・生殖医療についてのエビデンスを集積させる体制は整いつつありますが、卵巣機能の評価は、月経の有無と任意入力抗ミューラー管ホルモン (anti-Müllerian hormone; AMH) 値の項目だけで、正確な評価を行うのは困難です。そこで上記のデータを正確に集積して、患者背景・治療内容と治療後の卵巣機能についての関連性を明らかにして、がん治療の卵巣毒性に関するエビデンスの構築を目指すことがこの研究の目的です。</p> <p>患者さんの情報は、下記の項目をセキュリティ管理されたウェブサイトに登録します。</p>
研究対象者	・下記の妊孕性温存療法実施施設で、本研究に文書にて同意された方
利用又は提供する試料・情報の項目	<p>診療の過程で得られた下記項目を本研究に使用させていただきます。</p> <p>・がん治療情報：診断時年齢、癌種、初診からがん治療開始までの日数、手術の有無・種類、放射線治療の有無・照射部位・照射量、化学療法の有無（アルキル化剤の有無・薬剤名・薬剤量、アルキル化剤以外の抗がん剤の有無・薬剤名・薬剤量）、分子標的治療の有無・薬剤名・薬剤量、ホルモン治療の有無・薬剤名・薬剤量、免疫チェックポイント阻害薬の有無・薬剤名・薬剤量、造血幹細胞移植の有無・施術日・移植の種類 2 年後までの病状の経過</p>
研究予定期間	研究機関の長の実施許可日 ～ 2028 年 3 月末
試料・情報の取得方法	・通常診療の過程で得られる情報を利用させていただきます
試料・情報を利用する者の範囲	<p>妊孕性温存療法実施機関： 大阪大学医学部附属病院 大阪医科薬科大学病院 関西医科大学附属病院 HORAC グランフロント大阪クリニック IVF 大阪クリニック IVF なんばクリニック 大阪急性期・総合医療センター 谷口病院 なかむらレディースクリニック 近畿大学病院 府中のぞみクリニック 越田クリニック</p> <p>がん治療病院： 大阪国際がんセンター 大阪大学医学部附属病院 市立豊中病院 大阪医科薬科大</p>

	<p>学病院 関西医科大学附属病院 市立東大阪医療センター 八尾市立病院 近畿大学病院 国立病院機構大阪南医療センター 大阪労災病院 堺市立総合医療センター 市立岸和田市民病院 和泉市立総合医療センター 大阪公立大学医学部附属病院 大阪市立総合医療センター 大阪赤十字病院 国立病院機構大阪医療センター 大阪急性期・総合医療センター 市立池田病院 愛仁会高槻病院 松下記念病院 りんくう総合医療センター 淀川キリスト教病院 北野病院 住友病院 大阪警察病院 大阪母子医療センター 大阪プレストクリニック 社会医療法人生長会ベルランド総合病院</p>
<p>試料・情報の管理について責任を有する者の氏名又は機関の名称</p>	<p>大阪急性期・総合医療センター 生殖医療センター 森重健一郎</p>
<p>研究に協力したくない場合</p>	<p>研究への試料・情報の利用についてご同意いただけない場合は下記お問い合わせ先までお申し出ください。不同意の場合でも診療に不利益になることはありません。</p>
<p>お問合せ先</p>	<p>ベルランド総合病院 産婦人科 氏名：宮武 崇 メールアドレス：t_miyatake@seichokai.or.jp 〒599-8247 堺市中区東山 500-3 TEL：072-234-2001（代）</p>